

## 『エネルギー問題に効くデザイン』

一永井一史と若手デザイナーによる  
エネルギー削減のための30のアイデア



著者 : 永井一史+30人の若手デザイナーたち  
刊行 : 2012年4月15日  
出版社: 誠文堂新光社  
定価 : 1,680円

<目次>  
まえがき

- 第1章 なぜ今、デザイナーがエネルギー問題を考えるのか  
第2章 「低エネルギー社会」をデザインするための基礎知識  
問題を知る・気づきを得る  
～日本のエネルギーの現状  
意識を変える・行動にうつす  
～低エネルギー社会実現への6つの行動アプローチ  
第3章 デザイナーたちの日本を元気にするアイデア  
●「習慣・暮らし方」のデザイン  
●「知識・気づき」のデザイン  
●「情報」のデザイン  
●「社会・コミュニティ・まち」のデザイン  
第4章 これからの時代にデザインができること

東日本大震災後、消費エネルギーの削減は重要な社会課題の一つとなっています。本書は、デザインが持つ「問題の本質を捉え、構想し、その解決を促す力」を社会的な課題の解決に生かそうとする試みです。

本書は「エネルギー50%時代の新しいライフスタイルをデザインする」を課題としたワークショップから生まれました。デザイナー一人ひとりがエネルギー問題を改めて学び直し、時に一般家庭にお邪魔して生活者の日常をじっくりと観察する中で生まれた問題意識や発見を、デザイナーならではのユニークで大胆なアイデアで解決へと昇華させています。

日々の生活を見つめなおす『習慣・暮らし方のデザイン』の章では、「つい電気を消したくなるスイッチ」のデザインや、月々の光熱費をプリペイド化し、毎月目標額を設定することでエネルギー消費を自分ごと化する「SAVING→SAVING」などを紹介。

広い視点から社会を捉えなおす『社会・コミュニティ・まちのデザイン』の章では、信号機に植物の葉を模した太陽光発電パネルを取り付けた「SIGNAL TREE (信号の樹)」や、「エコカーをエコひいきする駐車場」など、ウイットに富んだアイデアを多数収録しています。

### 永井 一史

アートディレクター。1961年生まれ。1985年多摩美術大学卒業後、(株)博報堂入社。2003年ブランディングを中心とした会社(株)博報堂デザイン(HAKUHODO DESIGN)を設立。2007年よりデザインを通じてソーシャルな課題解決に取り組むプロジェクトを立ち上げる。2008年から2012年2月まで雑誌「広告」編集長を務める。日本グラフィックデザイナー協会会員。東京アートディレクターズクラブ会員。多摩美術大学客員教授。

